

茨木市立 豊川小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

令和元年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な生活習慣の定着を進めていくとともに、様々な生活体験を通して心豊かに、安心して過ごせる集団をつくり、遊ぶこと、体を動かすことが楽しいと思える子どもを育てる。 校区全体で、つながりを持って取組を展開し、一人も見捨てず、集団づくりと授業づくりの連携のなかで、全ての子どもたちが、違いを認め合い育ち合う集団をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保、幼、小、中、高、大地域、連携の情報共有発信 ・小中交流を進める。(6年同士の交流(児童会交流会)) ・共通実践を模索する。(同和教育や多文化共生教育) ・保幼小での段差解消に努め、職員同士が学び合う。(相互参観)小プールの解放、給食交流 ・いきいきスクールを活用し、中学校の教員が小学校へ来校し、授業などを行う。 ・合同授業研での柱を再確認し、授業づくりを共に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保、幼、小、中、高、大、地域連携の具体的実践の定着化 ・小中交流会において各校の実践を共通化させていく。共通実践の具体化を進める。 ・委員会や行事における交流を増やし、小小の子どもの出会いから学びを仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校区全体での連携推進 ・高校卒業時点を視野に入れ、豊かな進路選択ができるような、学力・生活習慣の定着。 ・成果と課題の分析。
確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・聴きあい学びあう子どもを育てる ・あきらめず最後まで学ぼうとする子どもを育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業づくり(学び育ちあう授業づくりの推進)個人研究テーマを持ち、視点や手立てを意識しながら、日常の授業を大切に取組む。また豊川中学校区合同授業研などの研究授業を通して授業づくりの検証を行う。 ②学力の定着を図るために「生活アップ月間」として家庭学習強化月間の取組み。(6月・11月・2月) ③休み時間・放課後に行う学習会(SSR)の実施・定着 ④読書活動の活性化 朝読・ベア読書の推進 保護者ボランティアや梅花女子大学との連携による読み聞かせ活動 ⑤漢字検定【2018年1月27日(土)に実施】 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題の分析 課題は次年度へ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題の分析 課題は次年度へ。
豊かな人間性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高める ・よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していく力を育む ・認め合い、命を大切にすることや自己有用感・自尊感情を育てる ・差別を見抜き行動する力をつける ・自分の中にある差別性に気付く 	<ol style="list-style-type: none"> ①1学期・2学期に集団づくり交流会をもち、教職員全体で全児童の状況把握を行い、今後の手立てを見つける。 ②1・2年生では“セルフケア”を実施し、自己調整や社会的・情緒的能力のスキルを身につける。 ③1年～6年、2年～4年、3年～5年のきょうたい学級の取組みを年間通じて行う。 ④各学年、コミュニケーショントレーニングを朝会の時間を利用して行う。 ⑤教職員で同和問題(部落差別)を深めるための研修を実施各学年、同和教育を深めるため、引き継ぎ資料を残し、全職員で実施計画を確認する。 ⑥キャリア教育を各学年すすめる。 ⑦多文化共生教育を郡山小学校と連携しながら模索 ⑧障害理解教育を深めるための研修を実施 	<ol style="list-style-type: none"> ①集団づくり交流会の実施 ②セルフケアの実施と検証 ③きょうたい学級の取組み ④コミュニケーショントレーニングの実施 ⑤同和問題(部落差別)の職員研修を実施 ⑥キャリア教育の実施 ⑦多文化共生教育の実践 ⑧障害理解教育の実施 ⑨性に関する指導、男女共生教育を各学年系統立てて進める <ul style="list-style-type: none"> ・授業案などの成果物の検討 ・成果と課題の分析 課題は次年度へ 	<ol style="list-style-type: none"> ①集団づくり交流会の実施 ②セルフケアの実施と検証 ③きょうたい学級の取組み ④コミュニケーショントレーニングの実施 ⑤同和問題(部落差別)の職員研修を実施 ⑥キャリア教育の実施 ⑦多文化共生教育の実践 ⑧障害理解教育の実施 ⑨性に関する指導、男女共生教育を各学年系統立てて進める <ul style="list-style-type: none"> ・授業案などの成果物を作成 ・成果と課題の分析 課題は次年度へ
健康・体力の増進	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが楽しく、好きになる子どもを育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業づくり 授業内容の検討および、体力向上に向けた取組み交流を定例の学力保障委員会で行う。 ②全校で取り組むこととして とよかわラリー ・休み時間の全校運動タイム マラソン大会 なわとびタイム ・休み時間の短縄跳び・大縄跳び ③遊びを通して委員会やベア学級などを利用して、体を動かすゲームを行う。 ④カリキュラムづくり ⑤放課後の運動場開放 	<ul style="list-style-type: none"> ○29年度に実施した項目について、検証し見直して推進していく。 ○カリキュラムの検討 豊川中学校区としてのカリキュラム作成に向けて、郡山小学校と検討会をもち作成を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題の分析
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・正答率の高かった領域
③読むこと
- ・全国平均と比べてもっとも正答率の低かった設問
漢字の書き取り（調査のたいしょう）
- ・全国平均と比べてもっとも正答率の高かった設問
接続語を使って内容を分けて書く

分析

全般的に概ね良好な結果となった。特に「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」設問は正答率が高く大変良好な結果であった。様々な教科において自分の考えを文章で表すことや、書いた文章をペアや班で推敲する活動など、自分と友だちとの表現の違いにこだわって授業改善を進めてきた結果であると考え。さらに、「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」設問の正答率が高かったことは、朝の読書の時間に行っているペア読書など読書活動の継続した取り組みの成果であると考え。また、生活アップ週間の取り組みなど、家庭学習の定着をはかり、家庭と連携して取り組んできたことも今回の結果につながったと考えられる。

例年本校では、漢字の書き取り・読み取りの正答率が最も高いが今年度は正答率が低かった。これは2年生から国語辞典をそばに置いて、言葉への興味・関心を持たせることに取り組んでいることや、毎年3学期に実施している漢字検定受検の取り組みの成果であると考えている。しかし、残念ながら今年度の漢字の書き取り・読み取りの正答率は高くなかった。特に同音異義語に関する設問での正解率が低く、漢字学習の際、同音異義語を意識した活動を取り入れていきたい。

また、「目的に応じて、質問を工夫する」設問は正答率が低かった。これは、普段の授業であまり経験していないことが要因と考えられる。本校は出会い学習等質問の機会も多くある。質問する子どもだけでなく、どの子どもも学べるよう学習活動の中に取り入れていきたい。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|---------------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった |
| ②量と測定 | たいへん良好な結果であった |
| ③図形 | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・全国平均と比べてもっとも正答率の高かった領域
②量と測定
- ・全国平均と比べてもっとも正答率の低かった領域
③図形
- ・全国平均との差がもっとも大きかった設問
▼図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
◎示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる

分析

全般的に良好な結果となった。特に算数「②量と測定」の領域「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」設問では全国平均を大きく上回る結果となった。これは、普段から式の意味を考え自分の言葉で説明することを繰り返してきた結果であると考えられる。さらに今年度は、記述式の問題の正答率も全国平均を大きく上回った。これは、数年前より基礎の習得とともに発展的な課題にも数多くチャレンジし、その内容を言語化して説明することにより、算数を本質的に理解しようとする活動を増やして取り組んでいるその成果が見られるかたちとなった。

また「①数と計算」「④数量関係」の領域では、基礎学習の定着がみられる結果となった。本校の課題の一つである家庭学習の定着が、休み時間の学習室の開放や放課後学習などで一定解消の方向にあり、その結果が見られたものと考えられる。

一方で「③図形」の領域は、正答率が低い設問がありやや課題が見られた。「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる」設問は全国平均を大きく下回った。授業では、図形を切ったりはったり操作しながら解を求める活動を多く取り入れているが、具体物を操作できない場面でも解を導く事ができるよう学習を深めていく必要がある。

本校の特徴として苦手意識のある応用問題においても、無解答率は低く、最後まであきらめずやり抜く力がついてきている。さらに、児童質問紙において「算数が好きか」の質問項目において全国平均を大きく上回っていることから、本校で大切に進められている『聴き合い学び合う授業づくり』が定着し、子どもたちに学びたいという意欲が高まってきている結果であると考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

算数は、正答率が比較的高く、学習の定着がみられた。また「算数が好きか」の質問項目において全国平均を大きく上回っており、本校で進めている『聴き合い学び合う授業づくり』の成果がみられたことが分かった。

国語科は全国平均に迫っており、確実に力がついてきている。やや課題が見られる面もあったが、全般的には概ね良好な結果となった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

これまでの結果を近似曲線で分析すると、学力高位層は、増加しており、学力低位層は減少している。学校として、ペア学習やグループ学習を取り入れた学習形態や低学年からの学力保障や家庭学習の定着度を上げる取組みなどが、学習に対する意欲や関心につながってきているものと考えられる。

また、中学校区として保幼小中連携をきめ細やかにい子どもの実態交流から課題の把握を丁寧に行っている。このような取組みも本校の学力保障に大きく寄与していると考えられる。

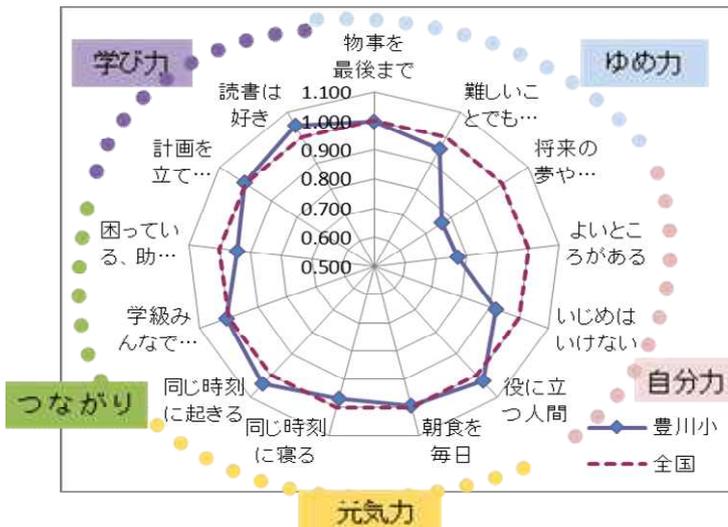
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

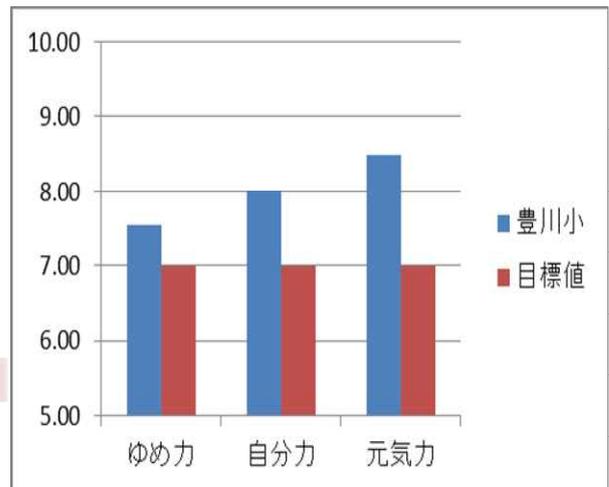
- 授業づくり・・・1年間を通して、子どもの姿から授業者が学ぶことを大切にする。
「聴き合い学び合う授業づくり」として豊川中学校区で取り組んでいる、ペアやグループ活動を通して全員が参加し考えられる授業づくりに取り組む。
中学校区での研究会や校内での研究会などにおける話し合いを大事にして、授業力を伸ばし子どもたちが意欲的に取り組める授業をめざす。
- 家庭学習・・・生活アップ月間として年3回（6月、11月、2月）家庭学習を重点的に取り組む期間として、家庭や子どもたちに意識を促す。
25分休み、昼休み、放課後の補充学習は、学生や学習サポーターとともに日常的に行い、宿題でできてないところや授業で最後までできなかった問題等を最後までやりきれるように支援する。「宿題は丁寧に家でする」を少しずつでも定着させたい。
- 読書活動・・・週2回の朝読は、教師も一緒に読書をして読む環境をつくる。
特に木曜日の朝読は、校内で共有できるよう同じ図書を使って「ペア読書」を行った後、言語活動を意識して内容について感想や意見を交流する。
図書館支援員とともに、より図書館利用が広まり、本を好きになる子どもたちが増えるように教室や図書室の環境を整える。
大学生やボランティア、保護者の読み聞かせなどにも今まで同様取り組んでいく。
- 漢字検定・・・3学期に実施する。保護者や地域の方にも呼びかける。
- 豊川スタンダード・学校生活や授業に関して、共通して理解しておくことを明文化したり視覚化したりして整えていく。
- 学習室の開放・・・授業で分からなかったところや課題が残っている児童を支援する。（25分・昼休み）放課後は、算数の宿題を中心に支援する。
- 教材の拡充・・・業務サポーターの協力を得ながら、具体物を使った授業を行うための教材の作成を行っている。複数の学年で活用できるように工夫している。
- その他・・・子どもたちの実態を常に考慮しながら、学校生活を支え「学びたいという意欲」をつけていく。そのために、支援員、サポーター、ボランティア、SSWなどと協力して取り組むとともに、地域、豊川ネットとの連携も大切にする。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

茨木市が定める目標値は達成できているが、全国平均と比べると、やや課題がある項目が多い。特に、「将来の夢や目標をもっていますか」や、「自分には、よいところがあると思いますか」などの項目が低い。これは自分に自信が持てていない児童が多いことが要因であり、これからも引き続き自尊感情を高めていくことが必要である。そのためには「聴き合い学び合う授業づくり」を基盤とした日々の授業づくりを丁寧に行う必要がある。ペア学習や班学習を通して自己有用感が得られ、安心して学習する雰囲気がつくりだされることが期待できる。これからも継続して取り組むことが必要であると考えます。

一方で「計画を立てて勉強する」の項目は全国平均を上回った。放課後の学習室の開放や、生活アップ月間の取り組みなどから家庭学習は定着しつつある。さらに「読書は好き」の項目が全国平均を大きく上回った。これは生活アップ月間の取り組みや図書館支援員や保護者やボランティアの読み聞かせなど、学校全体で取り組んでいる読書活動の成果であると言える。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目も全国平均を上回った。これは本校で系統立てて人権総合学習や道徳科の学習に取り組んだ結果である。これからも引き続き子どもたちの「豊かな人権感覚」と「確かな学力」の育成とともに、安心できる学校や地域をつくっていききたい。

取組み

・集団づくり

人間関係づくりのスキルを身につけ、自分の思いを出し合い、一人ひとりの思いを聴きあえる人間関係を築いていく中で、学力を保障していく。またどの子どもも安心していきいきと活動できる集団づくりをめざしていく。

1. 2年生「セルフケア」

全年学 「コミュニケーショントレーニング」「人権総合学習」
「なかまづくり」「友だちつくろう月間」など

・基本的な生活習慣の定着

集団登校の支援

年3回の「生活アップ月間」での生活の見直し、点検

家庭学習の推進

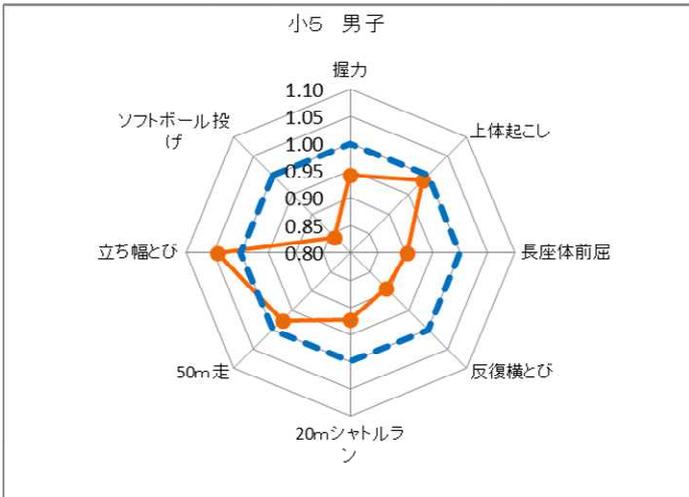
・ペア学級や縦わりグループの活用

ペア学級での集団遊びや学習、縦わりグループでの全校遠足など、異年齢でのつながりもつくる。

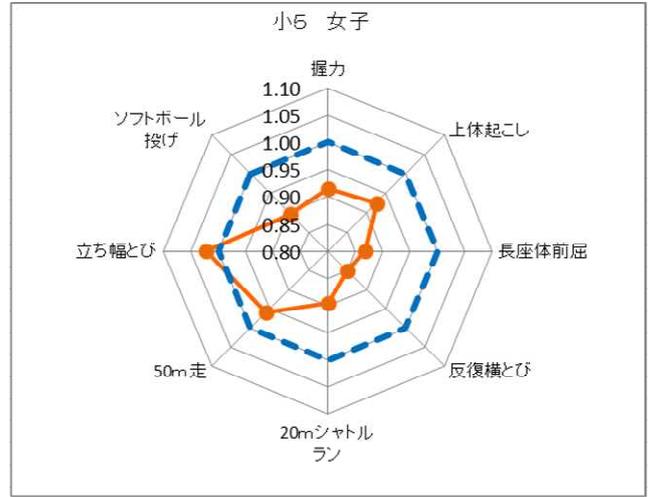
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

〇●体力●〇

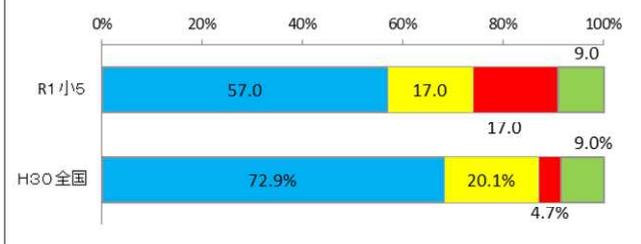
男子 (小5)



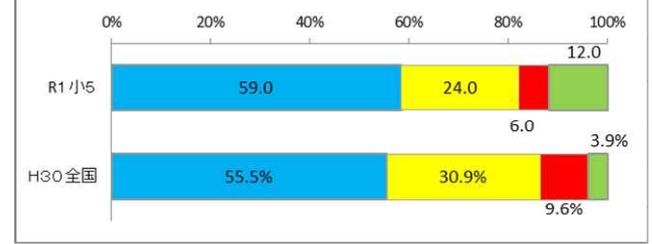
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

今年度は立ち幅跳びが男女ともに4年生時よりも大きく数値を伸ばす結果となった。これは普段の授業で「茨木っ子運動」を必ず行うことを学校全体として取り組んだ成果であると考えられる。また、本校で近年課題となっていた握力が全国平均に近づいてきている。これは玉投げなど握力が必要になる運動を校内で設定し、行ってきた成果が見られたものである。

長座体前屈では、全国平均を下回り、さらに4年生時よりも数値が低くなる結果となった。柔軟性が低くなっていることが考えられるため、「立命館短時間プログラム」やストレッチを取り入れることで柔軟性を高めていきたい。

本校では子どもたちの体力の向上をめざし、休み時間を利用した「とよかわラリー」や、「なわとびタイム」などの活動を行っている。その成果として、子どもたちの体力が全国平均値に近づいてきているため、今後も継続して行いたい。握力の伸びがソフトボール投げの向上にもつながるように、玉投げ以外のボールを使った種目も取り入れていくなど、子どもの実態を把握し、課題を明確にしながら今後も種目を検討していきたい。

取組み

- 授業の中では、子どもたちの運動の特性を知り、体ほぐし運動を毎時間取り入れて体づくりを行う。体幹を鍛えることも考慮する。
- 遊び、集団活動の中で、体を動かすことが楽しいと思える活動を取り入れる。
- とよかわラリーの実施
 - 休み時間の体力向上に向けた記録会 (木曜 25分休み)
 - 50m走・800m走 幅跳び 縄跳び 鉄棒 うんてい のぼり棒 ジグザグダッシュ フラフープ
 - ボール投げ ラダー ケンケン跳び
- マラソン大会 ○なわとびタイム ○なわとびの推進 (ジャンピングボード)
- 放課後の運動場の開放 (下校時刻)